

麻布（2017年度）

問一 a) 省 b) 横暴 c) 傷 d) 敵

問二 冬に森の食べ物がなくなり人里に出た「サンカク」たちだが、人間たちに見つかり逃げる途中に「アニキ」は車にひかれ命を落とし、「マル」と「サンカク」も命からがら逃げてきたから。

問三 人間とシカの関係が良好で人間にご飯をもらっているという「ウサウマ」の話をにわかには信じられず、また、一本の角も抜け落ちたうえに、ナラコウエンがどういうところかも分からず、慣れ親しんだ山から出ていくのは心細かったから。

問四 ナラコウエンにはたくさんのシカがいるが、冬であっても人間からシカセンベイを十分に与えられているため、野生の動物のようにサンカクたちを排除する必要がないから。

問五 「おれ」は仲間のシカ以外であれば警戒するのに、「フレンドリー」は何も不自由なく、他のシカたちと生活しているように見えたので、うらやましかったから。

問六 マルはナラコウエンでのルールを何の抵抗なく受け入れることができるのに対して、サンカクは人間があたえる食べ物に魅力を感じつつも、人間に迎合することにはためらいを感じているという違い。

問七 ウ

問八 草が生い茂る夏になっても、一日に一時間ぐらひは人間を喜ばせるために、食べたくもないシカセンベイを食べ、お辞儀をするというナラコウエンのシカに求められる役割を演じること。

問九 傷つけるかもしれないという人間の一方的な理由から角を切られ、見世物になるのは理不尽だと思っていて森の生活にはあこがれている。でも、今さら命の危険がある森の生活をするわけにはいかず、ナラコウエンでの生活がそれほど悪いものではないと自分に言い聞かせている。

問十 人間の一方的な見方によって、シカは良いものにも悪いものにもなりうるのだということへの腹立たしさ。

問十一 (1) 角切り

(2) マルとはこれまでずっと一緒に生きてきたため別れるのがつらく、人間の身勝手さを象徴する角切りの音を意識的に聞くことで、ナラコウエンを出ていく決心が鈍らないようにしたかったから。

問十二 エ

問十三 初めは、人間に食べ物をあたえられ気楽に過ごしているナラコウエンのシカの様子を見てうらやましく思い、自分もその環境に順応しようとした。しかし、「フレンドリー」から角切りの話を聞いてからは、本来あるべきシカの姿とはかけ離れているように感じ、たえられなくなった「おれ」は、たとえ人間に追われ危険な目にあつたとしても、自分の意思で自由に生きるべきだと感じたから。